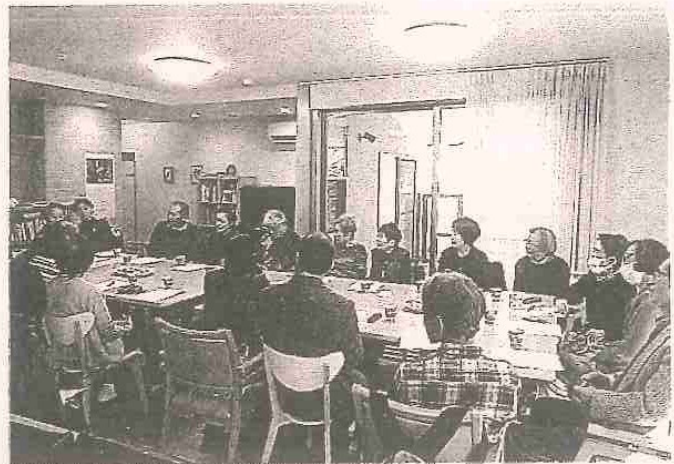




～「寄り添う人」とは～



こんにちは。月一回定期的にオカリナでボランティアに伺っている朝倉と申します。早いもので今年で足かけ5年になります。しかしお役に立っているのかどうかは未だにさっぱり分かりません。でも、ご一緒している30分の間に皆さんの笑顔が見られれば、ああ、今日も伺ってよかったなとおもうことにしています。



2月23日(土)ボランティアミーティング

さて、昨年のボランティアミーティングで、私たちボランティアは、家族でも介護職員でもない「寄り添う人」としてかかわりましょう、というお話しを伺いました。実はこのメッセージは、私のオカリナボランティアとしての姿勢を決定づけるものとして心に響きました。私がオカリナボランティアを始めたころを振り返ってみると、とにかく自分の演奏を聴いてもらうことしか頭になかったように思います。しかし、数年が経ったころ、これはなんか違うんじゃないかと思い始めました。利用者の皆さんの様子を注意深く伺っていると、自ら歌っているときととてもしみじみとした感情に浸っておられる様子が見て取れました。これはよその施設どこも同じでした。このことが分かってから、ボランティアの中身を試行錯誤的に演奏主体から歌の伴奏主体に替えてみることにしました。しかしその状態でもまだなんとなくもやもやした感じが吹っ切れなかったのです。その時「寄り添う人になりましょう」

の啓示を頂いて、はじめて自分の方針に自信が芽生えました。つまり、皆さんの歌に寄り添えばいいんだということ。分かってみればとても簡単なことで、要するにピアノのボランティアの方がやってくれるようにオカリナでやればいいんだということです。さて、これで私も「寄り添う人」の仲間に入れてもらえるかな、とひそかに期待しておりますが、どんなものでしょう。

(オカリナボランティア/朝倉夏雄)

